

6年生 タコノ葉細工に親しもう！

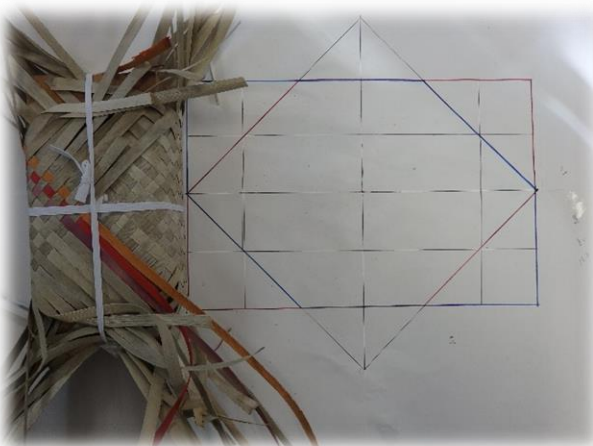
小学校 第6学年担任 唐澤 享輔

小学校6年生は、2学期の総合的な学習の時間において「タコノ葉細工をつくろう！」という授業に取り組んでいます。ここ母島の伝統工芸でもあるタコノ葉細工は、温かみのある色合いと細かい編み込みがとても素晴らしい工芸品です。子供たちはその存在はもちろん知っていますが、どのように作られたかまでは知りません。そこで、タコノ葉を採取するところから作品の完成までを目指し、およそ2か月にわたる学習をスタートしました。



9月20日(火) 天気に恵まれた中、タコノ葉採取に向かいました。タコノ葉はたくさんありますが、工芸品に使用できる大きさ、綺麗さとなると選定が難しく、子供たちは大粒の汗を流しながら、理想のタコノ葉を探し求めました。30枚ほど採取した後はすでに疲労困憊、クタクタになりながらも採りきった達成感を感じていました。

その後はローズ記念館に移動し、採取したタコノ葉のトゲや芯の部分をピーラーを使って削る作業です。厚手の手袋をしても、油断しているとトゲが刺さり、時折「いてっ！」という声が漏れながらも丁寧に削ることができました。次に窯で火を焚き、大きな鍋で茹でる作業です。火を絶やさないように、交代しながら1時間ほど茹で、取り出した後はよく拭いて干しました。



天気のよい日を見計らって干し続け一か月半、続いて作りたい細工の図案を書きます。図案をもとに、必要なタコノ葉細工を「ぶさき」と呼ばれる道具で同じ幅に裂きます。その後はひたすら編む作業です。裂いたタコノ葉細工を交互に、力強く編んでいきます。底面の部分を編み終わると、高さの部分を編んでいきます。そして最後に箱のフチに当たる部分をかがり縫いしていきます。図案を書いてから約1か月、タコノ葉を採取してから約2か月半、長い長い時間をかけてタコノ葉細工が完成しました。子供たちの努力の結晶は、学習発表会でぜひ御覧ください。